流通とＳＣ・私の視点

2011 年５月 10 日

視点(1392)　　天才浮世絵師 写楽と突然消えた謎とは!!

2011 年５月８日のＮＨＫスペシャルで、天才浮世絵師**「東洲斎写楽」**の謎の解明の番組が放送していました。この写楽の謎の解明に、ＮＨＫは時間と資金と専門家と科学技術を投入して、見事に解明していました。

写楽は、1794 年（寛政６年）から翌年にかけて、およそ 10 ヶ月の期間内に約 145 点余の錦絵作品を出版した後、浮世絵の分野から突如姿を消しました。しかも、他の浮世絵師の実名は明らかになっているのに、写楽の実名は不明のままで、残されているのは 10 ヶ月間の 145 点の錦絵作品のみであるため、謎の浮世絵師と呼ばれ、多くの人々から興味を持たれていました。

写楽の浮世絵の評価は次の通りです（ウィキペディアより）。

> 寛政 6 年 5 月に刊行された雲母摺、大判 28 枚の役者の大首絵は、デフォルメを駆使し、目の皺や鷲鼻、受け口など顔の特徴を誇張してその役者が持つ個性を大胆かつ巧みに描き、また表情やポーズもダイナミックに描いたそれまでになかったユニークな作品であった。その個性的な作品は強烈な印象を残さずにはおかない。

では、何故これほどの大作を描いた写楽が、突如、浮世絵師として 10 ヶ月間で消えてしまったのでしょうか。色々な諸説がありますが、ＮＨＫの分析の中で写楽が第１期、第２期、第３期と第４期に渡り出版した浮世絵の紙質の変化を捉えています。

第１期～第４期になるにつれて、浮世絵の紙質が低下し、浮世絵自体の個性も希薄化しています。

これは、写楽の浮世絵は庶民から見て高い評価を得られていなかったため、浮世絵の売れ行きが悪く、出版元である蔦屋が絶版したものと思われています。浮世絵は当時役者のブロマイドであり、庶民に人気のある絵ではないと売れませんでした。すなわち、江戸時代の浮世絵は芸術作品ではなく、単なる役者絵（ブロマイド）や景色絵だったのです。

ところが、浮世絵が芸術作品として高く評価され、写楽が天才的浮世絵師として認められたのは 100 年後の明治時代に浮世絵がヨーロッパに渡ってからのことです。

我々は、浮世絵が江戸時代から芸術作品であり、写楽が高い評価を得ていたという勘違いから、天才浮世絵師が突如消えたと思いこんでしまっていました。絵が売れるか売れないかというのと、絵に芸術性があるか否かは、全く異なる次元での評価です。我々のマーケティング業界でも、このようないい商品が何故売れないのだろうと思うことがあります。これは売り手の発想（作り手の発想）と買い手の発想（使う人の発想）の違いで、互いの発想には立場の違いがあるわけです。

ダイナミック流通理論の中に「根源的原因の探究」という概念があります。「そもそも、○○○とは何ぞやを利用者の立場に立って考えてこそ、本物が見える」という考え方です（六車流：流通理論）。

浮世絵とは何か!! 芸術的評価とは何か!! を我々が理解していたならば、写楽の天才浮世絵師の存在と突如姿を消した理由も、結果論ではありますが解明できたはずです。

写楽は浮世絵という枠の中で、江戸時代では天才的能力を発揮できませんでしたが、同じ天才的画家であるピカソは自らの異質なる画風を自らの行動で人々に評価させることに成功しました。いずれにしても、未知の新しいものを作り新しい行動を起こす時、それを評価してくれる**「偉大なる第三者」**（ごく少数のレベルの高い見えないものを見抜く見識者）の存在が必要となります。**一般の多くの人々が評価するレベルで見抜いても、天才は生まれません。**

(株)ダイナミックマーケティング社[+5]
代　表　六（む）　車（ぐるま）　秀　之

Copyright (C) Dynamic Marketing Co. Ltd. 2011 All rights reserved.